

地すべり北海道 29

～北海道地すべり学会ニュース～

目 次

[Hols News]

平成 23 年度地すべり学会研究発表会参加報告

および平成 24 年 8 月全国大会開催案内／藤原 知行・伊吹 敦・渡邊 司 1

[現地検討会報告]

平成 23 年度現地検討会開催の報告／巡検部 4

現地検討会に参加して／阿部 拓実 6

[総会報告]

平成 23 年度総会、特別講演会、研究発表会の報告／事業部 7

[委員会活動報告]

技術委員会より —平成 22 年度の活動報告と今後の活動計画— 8

研究委員会より —平成 22 年度の活動報告と平成 23 年度の活動・活動計画— 10

企画委員会より —平成 22 年度の活動報告と平成 23 年度の活動・活動計画— 11

[事務局より]

学会の動向と記録 12

[お知らせ]

..... 14

[書評]

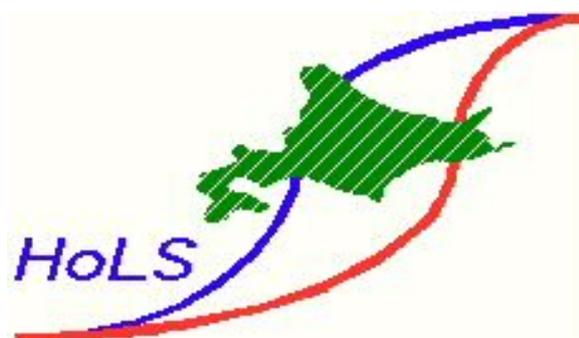
札幌の自然を歩く【第 3 版】／石丸 聡 15

[賛助会員名簿]

[学会役員幹事運営委員名簿]

[編集後記]

2011 年 11 月



平成 23 年度（社）日本地すべり学会 研究発表会・現地見学会参加報告 および平成 24 年 8 月 全国大会開催案内

サンコーコンサルタント(株)札幌支店 藤原 知行
(有)北海化成工業所 伊吹 敦
(株)シン技術コンサル 渡邊 司

第 50 回目を数える（社）日本地すべり学会 研究発表会・現地見学会は、平成 23 年 8 月 30 日～9 月 2 日の日程で、静岡県静岡市にて開催されました。来年度、第 51 回全国大会が北海道での開催となり、地すべり技術の研鑽に加えて静岡大会の大会運営状況を視察すべく、複数の役員、会員がこの大会に参加いたしました。本報告はこの内、上記 3 名による、“花の 40 代”の視点から感想を述べさせていただきます。

初日（30 日）は 18:00 より県民講演会が行われた。内容は、開催地の静岡県に相応しい、東海地震をテーマとした減災社会のお話しや、静岡市の歴史的シンボルである駿府城を晩年の居城とした徳川家康等の戦国武将をテーマとした講演であった。前者は、東海地震のメカニズムと想定される被害について触れ、現在の時代背景にも順応した減災に対する備えを、また後者は戦国武将達と防災・土木との関わりを、城地選定から治水、利水、築城といった事業として、それぞれ説明された。当日は多くの県民が集まり、会場を埋め尽くした。印象的だったのは、戦国武将の本を脇に抱えた小学生の男の子が父とともに熱心にお話を聞いていたことで、『北海道大会でもこのように大盛況な道民講演会にしたい』と奮い立たされた。



写真-1 メイン会場全景

さて、県民講演会が終わると“花の 40 代”が学習すべき内容は、“静岡の酒と肴”へと移ってしまう。直ちに市内の居酒屋へ急行し、ご当地特産品を片端から頼み、味わいながら酒で流し込む始末。店主の“どっから来たの”との問いに“北海道”と答え、後半は雑談に花を咲かせる。ここで、再び驚かされたのは、東海地震のお話しになった際、店主が“ここは津波がきたらみんな浸かるから、〇〇ビルの〇階より上に避難するんだ”と言ったこと。なんと防災教育が行き届いているのだろうか。素晴らしいの一言であった。



写真-2 桜エビ全景

こうして、飲みながらも勉強を重ねる 40 代達は、翌日、メイン会場である『静岡コンベンションアーツセンター“グランシップ”』へ向かい、総会、特別講演、午後には静岡県と北海道との引き継ぎ会議に参加し、現地見学会先として選んだ由比地すべりの特別セッションを聴講するなど、多忙なスケジュールを淡々とこなした。

由比地すべりは、非常に興味深い地すべり地である。何かが聞かれると、まず真っ先に挙げられるのが、計画されている対策工種である。“横ボーリング”、“集水井工”、“排水トンネル”、“抑止杭工”“深礎杭工（シャフト工）”etc…、まさに地すべり対策工の総合商社といったとこ

ろか。これも、日本の大動脈とも言える、国道1号、東名高速道路、JR東海道本線など東西を結ぶ重要交通網を保全対象として抱えることに他ならない。特別セッションでは、当地すべりの歴史（滑動履歴）や事業方針、ハードのみならずソフト面の整備状況なども紹介されていた。楽しみの現地視察を前に予習は一通りといったところか。しかし、この夜から不穏な空気が漂い始める。『台風12号』の接近である。

迫り来る台風を前に、“現地見学会中止では？”との声が開こえつつ、その夜、意見交換会が開催された。

意見交換会は、同じ会場内の宴会場で行われた。参加者が非常に多く、会場の円卓に自分の居場所を確保するのがやっとであるほど盛況であった。乾杯につづき、役員、来賓等の挨拶が一通り終わった後、空腹に耐えかねた我々は、一目散にビュッフェの方へ向かった。メニューには、桜エビ、カツオ、ウナギ、お茶など静岡産の食材が、巧みにちりばめられており、静岡を大いに感じさせるものばかりで大変満足であった。

おいしい夕食と飲み放題のお酒とともに、テーブルで一緒になった北海道組や他府県の方々と、地すべりやその他よもやま話に花を咲かせた2時間であった。いつも思うのだが、研究発表会等も大切だが、意見交換会は全国大会に参加した時の楽しみのひとつである。来年の北海道大会でも、参加者が大いに満足してもらえるような会になるよう頑張らねばならないと思った。



写真-3 意見交換会の様子

現地見学会は、台風の影響により一部コース変更（由比桜エビ館での昼食が中止）となったが、桜エビはすでに前夜、詳細観察のうえ胃におさめているので問題なしである。

我々が参加したAコースの主な見学地は由比地すべり→静岡県地震防災センターである。

由比地すべりは、昔からの交通の難所、かつ地すべり等の土砂災害が多く記録されている地域だったそうで、豪雨や東海地震などによる大規模地すべり災害発生を未

然に防ぐため、平成17年度から抑制工を中心とした地すべり対策工事が行われているようである。



写真-4 サッタ峠展望台より（富士山見えず）

急斜面を形成する地すべり地は、みかん畑・びわ畑として利用されており、十分な道路が整備されていないため、モノレールが張り巡らされている。このため、対策工事では重機（工法）の選定に制約があるとのこと。また、みかんは伐採してしまうと再び実がなるまでに14年の歳月がかかるため、深礎杭工の工事が終わったら覆土してみかん畑に戻さなければならないようである。



写真-5 みかん畑とモノレール

地震防災センターは、東海地震に立ち向かうための知識と対策・装備の普及向上、防災意識の高揚を図るとともに自主防災組織の活性化を図ることを目的に開館されたようである。

入り口を入ると、エントランス床には津波の想定到達範囲が図示され静岡全域の地形図が貼られ、いきなり危機感をあおるように造られている。他には、静岡市街地を背景にした津波襲来の想定映像を観たり、実際の地震と同じように3方向に動く起震装置による揺れを体感す

ることができた。他の来館者も多く、東海地震への関心が高いことを感じた。



写真-6 地震防災センターエントランス全景

最後に、『平成 24 年度（社）日本地すべり学会 第 51 回研究発表会及び現地見学会』は、北海道での開催が決定しました。

詳細は今後の学会誌等にて随時ご案内していきますが、平成 24 年 8 月 28～31 日の日程で札幌教育文化会館をメイン会場に企画しておりますので、会員各位におかれましては、発表はもとより多数のご出席をお願い申し上げます。



— 以上 —

平成 24 年度（社）日本地すべり学会 第 51 回研究発表会及び現地見学会のご案内

1. 開催日程

平成 24 年 8 月 28 日（火）

道民講演会

（札幌市教育文化会館 2F 小ホール）

平成 24 年 8 月 29 日（水）

開会式，特別講演

（同 2F 小ホール）

研究発表会

（同 2F 小ホール，4F 講堂，3F 研修室）

ポスターセッション，企業展示

（同 4F 研修室）

意見交換会

（ホテルさっぽろ芸文館）

平成 24 年 8 月 30 日（木）

研究発表会

（札幌市教育文化会館 4F 講堂，3F 研修室）

ポスターセッション，企業展示

（同 4F 研修室）

平成 24 年 8 月 31 日（金）

現地見学会

（2 コースを予定）

2. 会場

札幌市教育文化会館

〒060-0001

札幌市中央区北 1 条西 13 丁目

TEL. 011-271-5821

FAX. 011-271-1916

ホテルさっぽろ芸文館（予定）

〒060-0001

札幌市中央区北 1 条西 12 丁目

[現地検討会報告]

平成23年度 現地検討会開催の報告

北海道地すべり学会 巡検部

1. はじめに

平成23年度の活動として現地検討会を実施した。開催にあたっては、(社)日本地すべり学会北海道支部、日本応用地質学会北海道支部、北海道応用地質研究会との共催、(社)斜面防災対策技術協会北海道支部、北海道地質調査業協会の協賛、北海道地すべり防止工事士会の後援を得て、平成23年9月9日(金)に実施した。

本年度のテーマは「夕張シューパロダム施工技術と野花南地すべりの発生機構および対策工の検討」と題して、夕張シューパロダム(夕張市)および野花南地すべり(芦別市)の2箇所にて現地検討会を実施した。

業務の多忙な時期にも関わらず総勢29名(一般参加者23名、案内者2名、幹事4名)が参加した現地検討会となりました。

2. 夕張シューパロダム

現地の案内は、夕張シューパロダム総合建設事務所所長の古市雄一氏、大成・岩田地崎・中山 JV 副所長の村井正剛氏、日本工営株式会社の稲山栄治氏にて行われ、夕張シューパロダムの事業概要、設計・施工技術、地質等について現地検討会を実施した。

はじめに、夕張シューパロダムインホーションセンター2Fにて、事業概要、設計・施工技術について古市雄一氏、村井正剛氏から、地質について稲山栄治氏から説明がされた。



写真-1 夕張シューパロダム事業概要について上映
(夕張シューパロダムインホーションセンター2Fにて)

夕張シューパロダムは、現在、農業用と発電を目的として使用している大夕張ダムの下流に建設中であり、ダ

ムの大きさは、大夕張ダムの1.5倍、総貯水量は約5倍で、洪水調整、流水の正常な機能維持、灌漑用水、水道用水、発電を目的とした多目的ダムとして建設されている。



写真-2 夕張シューパロダム

ダム周辺の地質は、上部白亜函淵層と古第三系始新統の石狩層群から構成される。この2つの層は不整合で、褶曲によって逆転しているほか、断層などにより乱れた構造を呈している。このことから、地質構造を判断する際の考え方や地質構造を考慮した設計・施工技術等について説明がされた。ダムサイトでは、左岸展望台にてダムを一望しながら広域的な地質状況や施工技術について説明されたあと、実際に堤体に降りて露頭に触れながら、議論が多く交わされた。



写真-3 参加者集合写真
(夕張シューパロダム堤体右岸の露頭前にて撮影)

3. 芦別市野花南地すべり

現地の案内は、国土防災技術北海道株式会社の柳澤志樹氏により行われた。

野花南地すべりは、平成22年8月22日に確認された一般国道38号線沿いの地すべりである。末端崩壊を含む災害時の活動範囲は、長さ300m、平均幅150mで、滑落崖後方斜面の拡大亀裂を含めると350mの長さには達する地すべりである。

また、活動後の地すべり地内に認められた作業道路との位置関係から、移動距離は40～50mと推定されている。

現場は、対策工の施工に入るための伐開が済んでいるため山肌が露出し、活動した地すべりの土塊や滑動状況が遠方より明瞭にみてとれた。



写真-4 野花南地すべりの全景（遠方より望む）

柳澤志樹氏からは地表踏査結果、調査ボーリング、地下水検層、パイプひずみ計、地下水位計、地表伸縮計観測、地中伸縮計観測、温度検層、すべり面せん断試験等の結果を用いて、地質構造や地すべり発生機構について説明がされた。



写真-5 地すべり地内での検討会の様子

地質は、斜面上部に浦河層、斜面下部には中川層が分布し、断層で両者が接している。

地すべり発生機構としては、活動した地すべりの大部分が古期地すべりの堆積物分布範囲で、頭部の一部が浦河層分布域に拡大したとされている。斜面上部に分布する浦河層は、剥離特性を有する層理面が発達することから、岩盤内に卓越する破砕が進行し、層理面に形成された弱面をすべり面として滑動したとされている。

現地検討会としては、この推定に至るまでの調査方法や観測結果、決定根拠等を説明して頂くと共に、実際に現地を確認した。また、地すべり地内にて参加者全員が多くの議論が交わされた。

地すべりブロックは大きく3つに区分され、それぞれを区分した根拠やその評価、お互いに及ぼす影響について解説して頂いた。また、それぞれに評価されたブロックに対しての対策工について説明された



写真-6 地すべり側崖での露頭観察状況

対策工の本格的な施工はこれからであるため、地すべり地の露頭状況も比較的良く、柳澤志樹氏から説明して頂いた通り、複雑にブロック化して滑動した様相や地すべりの移動履歴を示す地形をみてとることができた。

また、自由な踏査時間の際には、急な斜面にもかかわらず、地すべり地内の見通しが良い事もあり、参加者全員が積極的に側崖や冠頂部へ移動し、互いに議論し合う様子が見られ、有意義な現地検討会となった。

近年、新規発生の地すべりが少ないため、発生直後の地すべりを生で確認する機会が数少なくなっている中、非常に貴重な現場であった。

4. おわりに

現地検討会終了後は、サッポロビール園にて意見交換会が行われ、見学地と同様に活発な討議が行われ有意義な現地検討会となった。現地では、時折小雨がちらつく事もあったが、天候が大きく崩れる事もなく、全行程を円滑に進行する事が出来た。これは、夕鉄バスの安全運行、案内者、参加者、関係機関および関係業者の皆様のご協力の賜であり、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

現地検討会に参加して

応用地質株式会社 阿部 拓実

1. はじめに

今回の現地検討会では、夕張シューパロダムと芦別市野花南の地すべりの2地点を見学しました。

2. 夕張シューパロダム

1か所目の夕張シューパロダムでは、現地見学の前にインフォメーションセンターにてダム事業の概要についてビデオなどを用いて説明していただきました。

大夕張ダムの下流に現在建設中である夕張シューパロダムは、洪水調節や水源の確保などを目的とした多目的ダムであり、地質状況は褶曲や断層などによって乱れた複雑な構造を呈しています。ダム周辺の地質状況については日本工営株式会社の稲山氏から説明していただきました。ダム周辺は白亜系の函淵層群と古第三系の石狩層群が分布しており、これらは不整合により接しています。透水条件などは断層に支配されており、断面図も複雑なものでした。白亜系と古第三系の地質の違いは地形に明確に現れていて、現地に行くと、稲山氏のご説明の通り地形の変化をありありと見て取ることができた。

私にとっては施工中のダムに入場すること自体、初めての経験だったので、ダムの施工現場や岩盤区分の様子など大変勉強になりました。



写真-1 夕張シューパロダム全景

3. 芦別市野花南の地すべり

2か所目の野花南の地すべりは、平成22年の8月に発生した地すべりであり、延長約250m、幅約150m、推定崩壊規模約20万m³の大規模な地すべりで、対策工を施工している状況でした。

現地には芦別市の道の駅での昼食のあと向かいました。

移動中のバスの車内からも緑に覆われた山肌の一部が崩壊により土がむき出しになっていることがわかります。

はじめは崩壊地を真正面に見据えて、この地すべりの調査に携わった国土防災技術北海道株式会社の柳澤氏から野花南地すべりの概要について、地すべりの発生から、調査の流れをわかりやすく説明していただきました。新規の地すべり堆積物の下位には古期地すべり堆積物が分布するという複雑な地質構造をもっているこの地すべりに対しての調査の着目点などは大変勉強になりました。続いて、地すべり内部での現地見学をしました。多少切土などはされていましたが、むき出しのすべり面や崩壊地形を生でみることができました。なかでも地すべり側部の露頭にみられた断層について、諸先輩方が断層の構造から地すべりの素因について交わされていた議論はとても興味深いものでした。



写真-2 野花南地すべりの断層露頭

4. おわりに

今回の現地検討会では施工中のダムの現場見学と大規模な地すべりの現場を見学することができました。

どちらの現場でも調査・設計に携わった技術者の方から現地でご説明していただき、得難い経験をすることができました。

[総会報告]

平成 23 年度 総会、特別講演、研究発表会の報告

北海道地すべり学会 事業部

1. はじめに

今年度の総会、特別講演、研究発表会は、平成 23 年 4 月 25 日(月)に札幌エルプラザ（札幌市）において、開催されました。参加者は 180 名（会員 125 名、一般参加者 55 名）でした。

2. 総会

総会は、末武会員の議長により議事の進行が執り行われました。各部・各委員会・事務局から、平成 22 年度の活動報告・決算報告および平成 23 年度活動計画・予算案について議事次第のとおり報告がなされ、いくつかの質疑を経て平成 23 年度総会の議案として承認されました。

3. 特別講演および研究発表会

総会に引き続き、社団法人日本地すべり学会北海道支部との共催により開催しました。

特別講演は独立行政法人土木研究所 脇坂安彦 地質監による「貯水池地すべりと地すべり移動体の破砕度区分」でした。キーワードは“貯水池地すべり、地すべり移動体、破砕度区分、複合面構造”であり、特に地すべり起源の角礫岩について興味深く聞かせていただきました。

研究発表は 8 件の申し込みがあり、発表が行なわれました。

4. 意見交換会

意見交換会は特別講演および研究発表会終了後に札幌アスペンホテルにて開催しました。50 名以上の参加者があり、活発な意見交換が行われました。

5. おわりに

来年 8 月には社団法人日本地すべり学会第 51 回研究発表会および現地見学会が札幌で行われることになりましたが、平成 24 年 4 月 27 日（金）には例年通り特別講演・研究発表会・意見交換会が行われます。来年度も多くの方に参加していただけることを楽しみにしています。



写真-1 会場全景



写真-2 特別講演の様子



写真-3 意見交換会の様子

[委員会活動報告]

技術委員会より -平成 22 年度の活動報告と今後の活動計画-

株式会社ダイヤコンサルタント 渡辺 一樹

1. はじめに

本年度より、技術委員会の委員長として会の企画、運営に当たることとなりました。これまでの各委員長が築かれました実績を踏まえ、委員会の更なる発展に全力を注いでいきますので、今後ともご支援の程、よろしくお願い致します。

さて、技術委員会は、「地すべり調査、解析、対策工の選定、施工など技術にかかわる分野を中心に討議を積み重ね、北海道の地すべり対策技術の向上に貢献する」を目的に平成 4 年に設立されました。

現在は 31 名の委員で構成されておりますが、そのメンバーは地すべり調査・解析、設計、施工、研究に携わるコンサルタント、ゼネコン、研究機関の方々と多岐にわたっております。

委員会は、各分野の委員が日ごろ業務や現場で遭遇した疑問点・問題点、実践した対処法などを紹介し、その技術について本音で議論しあう貴重な場であります。また、地すべりに関する諸基準や新技術などについても収集した情報等を随時発信しており、地すべり技術に関する情報収集の場となっております。

会員の皆様におかれましては、若手技術者の勉強の場として、また地すべりに従事する技術者の情報共有の場として、今後とも幅広く活用していただければ幸いです。

2. 平成 22 年度の活動報告

平成 22 年度は、委員会を計 3 回 (H22. 6、H23. 2、H23. 3) 開催し、地すべりに関する調査技術・対策工法等に関する話題提供と、平成 23 年度以降の活動計画について議論しました。

2.1 第 1 回技術委員会

第 1 回委員会は、平成 22 年 9 月 10 日 (金) に北海道自治労会館 4F 第 4 会議室において開催しました。参加者は 14 名でした。

議題は、以下のとおりです。

(1) 話題提供

地すべり調査に関する事例紹介、新工法による斜面補強工事の紹介および生田原南地すべりを例とした地すべり粘土に関する研究成果など、以下に示す 3 編の話題提供がありました。

・『地すべりを想定して発注された業務で地すべりを否定した事例』

(株)ダイヤコンサルタント 渡辺 一樹

・『S T マイクロパイル工法-斜面補強工事への適用について』

(株)ケー・エフ・シー 渡邊 直人 氏

・『地すべり移動体構成物質に基づく地すべりの分類 -生田原南地すべり地域の熱水変質帯地すべりの例-』

北見工業大学 前田 寛之 教授

(2) 今後の計画について

委員会の開催は例年通り、年 3 回 (6 月、2 月、3 月) を目標に計画することとしました。また、活動計画は基本的にはこれまで同様、地すべりに関する調査技術・対策工法等に関する話題提供を行うとともに、以下の 3 つのテーマについて、調査・研究を行い、成果を報告することを確認し、その方向性について議論を行いました。

- ①地すべり調査・設計・対策技術に関するアンケート
- ②地すべり技術に関する Q & A
- ③地すべり粘土に関する研究

今後の活動については、以下の各作業を推進していくこととしました。

- ・アンケートの地すべりデータ追加
- ・Q & A の質問事項収集 (技術講習会での記入用紙配布、ホームページの活用)
- ・すべり面粘土と地すべり移動体、および基岩の地質学的・粘土鉱物学的データの集積

2.2 第 2 回技術委員会

第 2 回委員会は、平成 23 年 2 月 4 日 (金) に松崎南 1 条ビルディング 2F 会議室において開催しました。参加者は 14 名でした。

議題は、以下のとおりです。

(1) 話題提供

地すべり調査の手法に関する以下の話題提供がありました。

・『地すべり調査における表面波探査の活用例』

(株)田宮設計事務所 安田 匡 氏

(2) 今後の活動計画について

各テーマの活動計画について、具体案を議論しました。

また、平成 24 年度の全国大会は北海道での開催が濃厚となったことを踏まえ、技術委員会として全国大会へ向けての取り組みを議論し、各委員協力体制の基、全国大会へ向け活動することを決定しました。なお、活動に当たっては、技術委員会が掲げる 3 つのテーマ（アンケート、Q & A、地すべり粘土）も成果として公表できるよう取り組む旨を確認しました。

2.3 第 3 回技術委員会

第 3 回委員会は、平成 23 年 3 月 4 日（金）に北海道自治労会館 3F 第 1 会議室において開催しました。参加者は 28 名でした。

議題は、以下のとおりです。

(1) 話題提供

地すべり地における地下水調査・解析について、以下の話題提供がありました。

- ・『建設・災害地下水調査法の提案』
自然地下水調査研究所 竹内 篤雄 氏

(2) 今後の活動計画について

各テーマについて以下の議論がなされました。

① 話題提供

- ・これまでと同様に委員による発表と外部から招いた講演者による発表を織り交ぜて計画し、若手技術者の参加を促すことを目指す方針とした。

① 地すべり調査・設計・対策技術に関するアンケート

- ・これまでに回収されたアンケートの集計ならびに解析を行なう。

② 地すべり技術に関する Q & A

- ・引き続き、質問内容の募集を行うと共に、収集内容については委員会で議論することを確認した。
- ・質問件数はまだ少ないため、各委員の所属会社（内部）を含め、再度、収集に協力いただくよう打診した。

③ 地すべり粘土に関する研究

- ・実務に役立つすべり面粘土の研究に関する成果の作成を推進する方針とした。
- ・上記 Q & A の内容から、目標としている執筆項目で利用可能なものを抽出し、双方の併用作業にて原稿を整理していく。

3. 今後の活動計画

3.1 研究委員会との合同活動計画について

平成 23 年度は、平成 24 年全国大会の準備を行うとともに、大会の案内書である「北海道の地すべり 2012」の作成を主目的として活動します。このため、研究委員会との協力体制を確立した上で「北海道の地すべり 2012」編集委員会を組織し、以下の項目について議論・検討する予定です。

- 1) 「北海道の地すべり 2012」の内容・構成の調整
- 2) 執筆対象となる地すべり候補地の選定
- 3) 執筆者の選定および依頼
- 4) 査読者の選定および依頼
- 5) 最終原稿が集まった後の編集作業
- 6) 表紙等のデザインおよび校正作業

研究委員会との合同活動の日程は、7 月、12 月および 2 月を計画しております。

3.2 通常の活動計画について

平成 22 年度に引き続き、地すべりに関する調査技術・設計・対策技術について話題提供を行うとともに、3 つのテーマについて調査・研究し、活動状況を随時ホームページ上に公開する予定です。

技術委員会の単独開催は、11 月を計画しております。

- ① 地すべり調査・設計・対策技術に関するアンケート
アンケート結果の集計、分析作業を推進し、上記した「北海道の地すべり 2012」に成果を報告します。

② 地すべり技術に関する Q & A

質問内容については、各委員の所属会社（内部）を含め、再度、収集すると共に、収集内容を委員会で議論する計画としております。

また、収集される質問内容を公開できるように整理し、HP 等で紹介する予定です。

③ 地すべり粘土に関する研究

昨年に引き続き、以下の活動を計画しています。

- ・すべり面粘土と地すべり移動体および基岩の地質学的および粘土鉱物学的データを集積する
- ・それらの土質力学的および岩石力学的データについても文献調査、各種試験などを行って蓄積する
- ・地すべり学における実務に役立つ土質力学や岩石力学の確立を目指す

研究委員会より

-平成 22 年度の活動報告と平成 23 年度の活動・活動計画-

北海道立総合研究機構 地質研究所 石丸 聡

1. 研究委員会の今後の活動について

本年度より、研究委員会の委員長を務めることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

研究委員会は、これまで地すべり学会北海道支部ならびに北海道地すべり学会の研究活動の中核を担い、その成果を書籍やDVDなど数多くの出版物にとりまとめ公表してまいりました。これまでご尽力されてきた各委員長と同様、両学会の研究活動が少しでも活発となるよう力を注ぐ所存でございますので、今後ともご支援の程よろしくをお願いいたします。

今年度は、これまで実施してきた研究委員会の活動以外に、来年の2012年に開催される第51回日本地すべり学会札幌大会にむけて、北海道の地すべりを紹介する「北海道の地すべり2012」を技術委員会との共同作業で作成いたします。この書籍は、冒頭に北海道の地すべりの特徴やこれまでの地すべり災害をとりまとめたものを示し、さらに各地の代表的な地すべりについて、その特徴ならびに対策事例を紹介いたします。豊富なカラー写真や図表を掲載し、視覚的にも見やすく使いやすいものを目指しています。執筆・掲載にあたり、北海道支部ならびに北海道地すべり学会の会員の皆さまのご協力をいただきながら、多くの方に使っていただける資料を目指しておりますので、ご支援よろしくをお願いいたします。

2. 平成 22 年度の活動報告

平成 22 年（2010 年）に発生した斜面災害についての報告ならびに、平成 24 年（2012 年）開催予定の（社）日本地すべり学会の全国大会へ向けての取り組み、今後の委員会活動について検討しました。

(1) 委員会の開催

日時：平成 23 年 1 月 28 日（金） 15：00～17：30

会場：北海道立総合研究機構 地質研究所

参加者：27 名

○話題提供：「2010 年に発生した斜面災害報告」

- ・ 壮瞥町上久保内の地すべり
田近 淳（道総研 地質研究所）
- ・ 12 月 2 日の清田区直下の地震による斜面崩壊
田近 淳（道総研 地質研究所）
- ・ 平成 22 年 7 月 17～19 日の豪雨による遠別川上流の斜面崩壊
戸田英明（㈱ドーコン）
- ・ 遠別町 道路盛土の被災事例と復旧工法
坪山厚実（明治コンサルタント㈱）
- ・ 8 月 14 日 遠別・天塩の豪雨災害
石丸 聡（道総研 地質研究所）

○報告・討議：

1) 地すべり活動度評価について

- ・ 対岸衝突乗り上げ地すべりについて

雨宮和夫（防災地質工業㈱）

2) 日本地すべり学会 2012 年大会に向けての取り組み

「北海道の地すべり'99」以降の斜面災害・指定防止区域を中心とした報告・案内書を取りまとめる。編集作業については、技術委員会と連携しながら取り組む。

3) 今後の活動について

滝川・吉野地域を対象にした地すべり斜面の活動性評価については、これまで進めてきた作業をとりまとめ、支部発表会や 2012 年大会での公表を目指す。

(2) 活動状況の公開

委員会の開催案内を学会メーリングリストに流し、委員会メンバー以外の会員にも参加を呼びかけました。また、委員会報告、作業状況などをホームページを通じて公開しました。

3. 平成 23 年度の活動と活動計画

(1) 委員会等の開催

平成 23 年度は 2～3 回の委員会を予定しています。内容はテーマ調査研究に関連した話題提供・作業の確認、および地すべり災害が生じた際は緊急報告を行う予定です。第 51 回全国大会（H24 北海道）用の資料集作成の協議が必要なため、共同作業を行う技術委員会との共催もを行います。

(2) テーマ調査研究

これまで実施してきた滝川・吉野地域を対象とした「地すべり斜面の活動性評価・地すべりハザードマップ作成」の取りまとめを行う予定です。また、地質研究所の北海道重点研究「土砂災害軽減のための地すべり活動度評価手法の開発」と連携した調査研究を行なう予定です。

(3) 地すべり資料集作成

第 51 回全国大会（H24 北海道）に向けて、道内地すべり資料集「北海道の地すべり 2012」を技術委員会と協力しながら作成します。

(4) 活動状況の公開

委員会の開催案内・報告、作業状況などを学会ホームページで公開します。

(5) ホームページ充実への対応

地すべり災害データファイルの充実に向けての作業を進めます。会員の皆様には、地すべり'99 および 30 周年記念 CD に掲載されている地すべり災害についての原稿作成（A4, 2 ページ）・投稿をお願いいたします。

企画委員会より -平成 22 年度の活動報告と平成 23 年度の活動・活動計画-

明治コンサルタント株式会社 納谷 宏

平成 22 年度活動報告

企画委員会では、平成 22 年度に以下の活動を行いました。

(1) 平成 22 年度 日高振興局山地災害防止キャンペーン 模型展示、実演

北海道日高振興局主催の「平成 22 年度 日高振興局山地災害防止キャンペーン治山事業写真パネル展」に協力し、北海道立総合研究機構地質研究所、北海道森林土木設計協会と合同で地すべり模型の展示実演を行った。

◆対象：日高振興局管内一般市民

◆日時：2010 年 6 月 27 日（日）～6 月 30 日（水）（4 日間）

◆場所：浦河ショッピングセンター M i O

◆展示実演内容：

「山地災害防止キャンペーン」の観点から一般市民を対象にわかりやすく地すべり模型、地表伸縮計模型の展示実演を行った。

(2) 北海道岩見沢農業高等学校「山地防災教室」開催

北海道岩見沢農業高等学校にて「山地防災教室」を開催した。

◆対象：同校森林科学科の 1 年生 41 名

◆日時：2011 年 2 月 2 日（水）13：15～14：50（1 時間 35 分）

◆場所：北海道岩見沢農業高等学校教室

◆授業内容：

「治山」「山地防災」「森林の役割」と「地すべり防災」をからめた基礎的事項の授業と地すべり模型実演を行ったほか、地すべり地形や山地災害地形の空中写真判読実習も行った。

専門課程に入る前の 1 年生を対象とした授業であったが、ビデオ上映や模型実演、空中写真判読と具体的に山地災害を実感してもらえるように授業内容を工夫した結果、概ね好評であったと思われる。

なお、この授業の様子は 2011 年 2 月 3 日付北海道新聞（朝刊：空知地方版，夕刊：全道版）に記事として掲載された。

平成 23 年度活動計画

企画委員会では、平成 23 年度の活動として以下の計画をしております。

(1) 企画委員会の開催

企画委員会を開催し、活動内容と進捗状況、問題点などについて検討する。

特に、これまでの防災教室において実績のない、実際の地すべり地でのフィールド実習の内容や子供たち（小中学生）を対象とした防災教室の内容などについて検討を行う。

(2) 一般市民を対象とした地すべり防災教室の開催

平成 22 年度同様に、一般市民や子供たち、学生を対象に、地すべり防災授業と地すべり模型、地すべり観測機器模型の出張展示実演を行う予定である。

10 月現在、北海道岩見沢農業高等学校にて「山地防災教室 野外巡検」を開催した。

◆対象：同校森林科学科の 3 年生 36 名

◆日時：2011 年 10 月 28 日（金）8：45～15：30

◆場所：当別町（当別ダム，当別川流域，道民の森神居尻地区）

◆授業（野外巡検）内容：

①当別ダム建設現場：当別ダム建設目的とその効果，ダム建設の工法について学習。

②当別ダム堤体：法面保護工，調査ボーリング，ボーリング孔を利用した観測方法について学習。

③当別川流域地質露頭：新第三紀の堆積岩，段丘堆積物層を見学し，当別川流域の地質，地形の成り立ちを学習。

④道民の森神居尻地区：地すべり現象による地形変状を見学し，地すべり発生のメカニズムを学習。

⑤道民の森神居尻地区 治山の森：現地に実際に施工されている治山施設（法枠工，床固工，雪崩防止柵，スリットダム，谷止工，流路工など）を見学し，治山事業の重要性，工事の種類，設計の考え方を学習。

対象の生徒は 1 年生の時に教室での「山地防災教室」を受講しており，今回はその実践編として野外にて工事現場や地質，地すべり，治山施設を見学した。丸一日をかけて，学校のバスを利用して野外巡検を実施し，内容も盛りだくさんであったが，生徒の印象に残る授業となったと思われる。

(3) 地すべり模型教材の改良等の実施

地すべり防災授業に使用する地すべり画像等の収集を行う予定である。

学会の動向と記録

株式会社シン技術コンサル 渡邊 司

1. はじめに

昨年の支部ニュースでは、技術委員会の委員長に就任し会の発展に全力を注ぐ旨のご挨拶をしたばかりでした。それから僅か1年、前事務局長である日本工営（株）札幌支店 中田氏の転勤に伴い、後任として事務局長の職務を担うこととなりました。

会員の皆様もご周知のことと存じますが、『平成24年度（社）日本地すべり学会 第51回研究発表会及び現地見学会』は北海道で行われることとなり、当会としてもこの北海道における大イベントを盛り立てるべく、全力を挙げ取り組む必要があります。当然、開催日程である平成24年8月までの準備期間、ならびに大会終了まで、大会関係者全員に激務が課せられる状況となりますが、道内外の皆様方から大会終了後に高い評価を頂けるよう、また再び北海道を訪れたいと感じていただけるよう、努めていきたいと考えております。大会準備に当たり、会員の皆様方にも様々な面でお力添えを頂きたい、この場を借りてお願い申し上げる次第であります。

2. 学会の動向と記録

本年は、以下の日程で第1回幹事会が開催された。議事内容を以下に示す。

第1回 幹事会

日時:平成23年6月20日(月曜日)14:00~16:00
場所:JSTイノベーションプラザ セミナー室

2.1 幹事会の構成について

事務局より、事務局長の変更と幹事の増員について報告がありました。

《 事務局長の変更 》

前任 日本工営（株）札幌支店 中田 勝仁氏（転勤につき解任）
後任 （株）シン技術コンサル 渡邊 司氏

《 幹事の増員 》

幹事 事務局長次長
日本工営（株）札幌支店 高貝 暢浩 氏
幹事 事務局長次長
防災地質工業（株） 石田 博英 氏
幹事 研究委員会
北見工業大学 工学部 社会環境工学科 山崎 新太郎 氏
幹事 大会準備
川崎地質（株） 北海道支店

沼宮内 信 氏

2.2 平成23年度 事業計画

○ 総会及び研究発表会（事業部）

総会及び研究発表会等について以下の報告があった。

平成23年度総会を平成23年4月25日(月)に札幌エンプラザ（札幌市）において開催し、同会場にて社団法人日本地すべり学会北海道支部との共催により、参加者180名（会員125名、一般参加者55名）を得て研究発表会を行った。

特別講演は独立行政法人土木研究所 脇坂安彦 地質監による「貯水池地すべりと地すべり移動体の破砕度区分」であった。研究発表会では8件の発表が行われた。

意見交換会を特別講演および研究発表会終了後に札幌アспенホテルにて開催した。

平成24年度に向けた活動として、平成24年度は（社）日本地すべり学会 第51回研究発表会および現地見学会が札幌で予定されていることから、その準備を事務局と協力して行う。また、平成24年度の特別講演および研究発表会の内容の検討、人選および依頼、発表者の募集などの準備を行う。

○ 広報部の活動（広報部）

広報部より、以下の活動を行う旨の報告があった。

- (1) 北海道地すべり学会のホームページの運営・管理を行う。
- (2) メーリングリストを運営し、学会行事や事務伝達を行う。平成23年3月段階のメーリングリストへの会員の参加状況は以下のとおり。

官庁（オブザーバー含む）・学生 : 39 / 56 (69.6%)
民間 : 209 / 260 (80.4%)
全体 : 248 / 316 (78.5%)

※（社）日本地すべり学会北海道支部会員も含む

- (3) 北海道地すべり学会ニュース「地すべり北海道29」を発行する（ホームページ上で公開）。
- (4) 平成23年4月25日に開催される研究発表会の予稿集を編集発行した。

○ 巡検部の活動（巡検部）

巡検部からは以下の活動を行う旨の報告があった。現地見学会は（社）日本地すべり学会北海道支部、日本応用地質学会北海道支部、北海道応用地質研究会との共催で

行う。また、(社)斜面防災対策技術協会北海道支部、北海道地質調査業協会の協賛、北海道地すべり防止工事士会の後援を頂き開催する(依頼状提出済み)。

開催地は「夕張シューパロダム、芦別市野花南の地すべり」、開催日は9月2日(金)の日帰り、募集人数は35名で計画している。

参加費は、昨年度と同じく「北海道地すべり学会個人会員または北海道応用地質研究会個人会員の方は4,000円/名」とし、「以外の方は5,000円/名」とする。

帰札後に行う意見交換会(サッポロビール園)は、希望者のみ別途3,000円/名を徴収し行う(参加費、意見交換会費ともに昨年度と同額)。

今後は、案内者と見学箇所等について詰め、詳細が決定次第、会員各位に通知する予定である。

○技術普及部の活動(技術普及部)

技術普及部からは以下の活動方針であることが報告された。

現場・実務に役立つという方針で、若手技術者を主な対象に、直近の話題や講師の方の得意分野も考慮し内容を決定する予定である。

本年度は11~12月に講習会開催を予定している。

○技術委員会の活動(技術委員会)

以下の活動方針が報告された。

(1) 委員会の開催について

年4回の委員会開催を計画する(7月、10月、12月、2月)。本年度は、平成24年全国大会の準備を主目的として活動するため、委員会内部で委員の作業分担など組織の再編成を行うとともに、研究委員会との協力体制を確立した上で研究テーマを検討する。

・合同開催:7月、12月、2月

・単独開催:10月

(2) 活動内容

平成22年度に引き続き、例年の委員会で実施している「地すべりに関する調査技術・設計・対策技術に関する提供」を数件実施する。

また、長期的な活動項目として継続的に調査・研究している以下のテーマについて、これまでに集積してきた題材・テーマの分析、とりまとめを行い、全国大会の研究発表資料を作成する。

・地すべり調査・設計・対策技術に関するアンケートの実施

・地すべり技術に関するQ&Aの開催

・地すべり粘土に関する研究

○研究委員会の活動(研究委員会)

以下の活動方針が報告された。

(1) 委員会等の開催

平成23年度は2~3回の委員会を予定している。内容はテーマ調査研究に関連した話題提供・作業の確認、およ

び地すべり災害が生じた際は緊急報告を行う予定である。

第51回全国大会(H24北海道)用の資料集作成の協議が必要なため、共同作業を行う技術委員会との共催も計画している。

(2) テーマ調査研究

これまで実施してきた滝川・吉野地域を対象とした「地すべり斜面の活動性評価・地すべりハザードマップ作成」の取りまとめを行う。また、地質研究所の北海道重点研究「土砂災害軽減のための地すべり活動度評価手法の開発」と連携した調査研究の推進を予定している。

(3) 地すべり資料集作成

第51回全国大会(H24北海道)向けの道内地すべり資料集を技術委員会と協力して作成する予定である。

(4) 活動状況の公開

委員会の開催案内・報告、作業状況などを学会ホームページで公開する。

(5) ホームページ充実への対応

地すべり災害データファイルの充実に向けての作業を進める。地すべり'99および30周年記念CDに掲載されている地すべり災害についての原稿作成(図表・写真を含めA4、2ページ)・投稿をお願いしたい。

○企画委員会活動(企画委員会)

企画委員会からは以下の活動計画が報告された。

(1) 企画委員会の開催

企画委員会を開催し、活動内容と進捗状況、問題点などについて検討する。

特に、これまでの防災教室において実績のない、実際の地すべり地でのフィールド実習の内容や子供たち(小中学生)を対象とした防災教室の内容などについて検討を行う。

(2) 一般市民を対象とした地すべり防災教室の開催

平成22年度同様に、一般市民や子供たち、学生を対象に、地すべり防災授業と地すべり模型、地すべり観測機器模型の出張展示実演を行う予定である。

現在、北海道岩見沢農業高等学校より今年度の山地防災教室として実際の地すべり地でのフィールド実習も計画したいとの要望を受けている。具体的には、9月頃に3年生を対象に、当別町の道民の森(神居尻地区治山の森)にて、治山砂防施設や地すべり地形の見学を考えているとのこと。

どのような形で実施するかは岩見沢農業高校と具体的な打ち合わせを行ってから検討となるが、現地地下見、資料作成、当日の説明者、実習要員の人員、移動手段、予算など計画的に行う必要がある。是非皆さんのご協力、ご助言をお願いしたい。

(3) 地すべり模型教材の改良等の実施

地すべり防災授業に使用する地すべり模型、各地すべり観測機器模型の点検補修を行う予定である。

3. 会員状況

平成23年3月31日現在の会員は、官公庁・大学関係者が38名、民間関係者が233名の合計271名で、賛助会員は民間32団体・社である。

平成22年度に新たに入会した方が12名、退会した方が15名となっている。

なお、規定第4条7の会費未納による除籍対象者(H20、21、22年度分会費未納者)は、官公庁1名、民間5名の計6名であった。未納のままであれば次年度の会員数は271-6=265名となる。

また、この中で(社)日本地すべり学会の会員でもある方は、官公庁・大学関係で17名、民間関係者で74名である(支部のみの会員は23名)。

平成21年度より採用した振り込みによる入金方法では、開始年度は納入率70%であったものの、平成22年度には前年度分の会費を納入していただくケースもあり、現時点で87%の会費納入率である。これは当入金手法が定着されたことが何え、今後は同手法の継続により概ね90%程度の納入率が期待される見通しである。

なお、本年度の会費をまだご入金されていない会員の方には、早めにご入金いただきますよう、この場を借りてお願い申し上げます。

[お知らせ]

(社) 日本地すべり学会北海道支部、北海道地すべり学会 技術講習会のご案内 (技術普及部)

平成23年度技術講習会は、平成23年12月13日(火曜日)、自治労会館(札幌市北区北6条西7丁目)で開催する予定です。詳細が決まりしだい、メーリングリスト等でご連絡を申し上げます。

(社) 日本地すべり学会北海道支部、北海道地すべり学会 平成24年度総会のご案内 (事業部)

平成24年度総会は、平成24年4月27日(金曜日)、札幌エルプラザ(札幌市北区北8条西3丁目)で開催する予定です。詳細が決まりしだい、メーリングリスト等でご連絡を申し上げます。

[書評]

札幌の自然を歩く【第3版】 道央地域の地質あんない

宮坂 省吾・田中 実・岡 孝雄・岡村 聡・中川 充 編、北海道大学出版会

(北海道立総合研究機構 地質研究所 石丸 聡)

札幌は190万人が住む全国屈指の大都市でありながら、すぐ近郊には気軽に自然に触れながら野山を巡ることができる恵まれた環境にある。本書はこのように恵まれた自然の中を歩きながら、その足元の大地がどのような変遷を経て形成されてきたかを紹介する、地質専門家のみならず一般市民のハイキングや散策にも活用できるような平易な文章を心がけて書かれた地質案内書である。

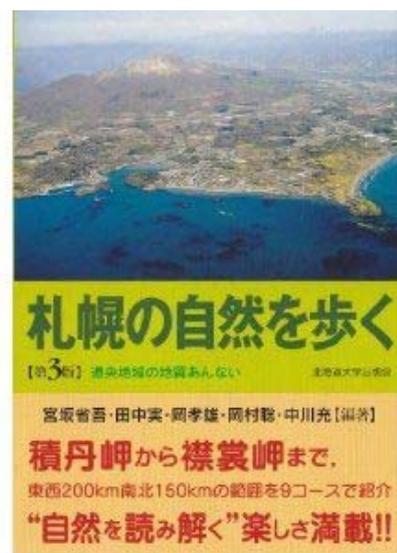
本書「札幌の自然を歩く」は1978年、1988年の出版に続く第3版で、道内の地質案内書「自然を歩くシリーズ」中、最も多くの人に読まれてきた書を23年ぶりに全面改訂した待望の1冊である。本書の構成は、第I章「札幌中心部から石狩湾へ」、第II章「豊平川の支流へ」、第III章「当別川沿い、道民の森方面へ」、第IV章「藻岩山と手稲山」、第V章「積丹半島へ」、第VI章「第四紀の火山」、第VII章「夕張岳へ」、第VIII章「日高山脈へ」、第IX章「えりも岬へ」、第X章「札幌中心の地史」からなる。

本書は「札幌の～」というタイトルでありながら、サブタイトルには“道央地域の地質あんない”とあるように、その対象地域は西は積丹半島や洞爺湖、東は日高山脈から襟裳岬までと、“札幌”の範囲をはるかに越えた案内書となっている。さらに、この書の対象となるものは、地質の特定分野に限定されず、化石、火山、活断層、斜面災害など専門性も多岐に渡り、また、扱われる地質時代も白亜紀、古第三紀、新第三紀、第四紀とバラエティに富んでいる。こうした幅広い内容にも関わらず、本書は現地見学案内を目的としているため、多岐にわたる内容がコース沿いの見学順に紹介されており、テーマや層序の説明順序が行き来する例も散見される。そのため、対象となる内容はもちろん、その地域の地理や時代に詳しい者でないかぎり頭の中が混乱しかねない状況になりがちであるが、それらを補うためにカラー写真をふんだんに使った地域別の形成史口絵（全18ページ）、および全地域の地史をまとめた年表を冒頭ページに配置している。これにより、本書を通読中に冒頭の口絵と年表をのぞき見れば、その地域の地史的な位置づけを確認できるし、その反対に口絵写真や年表から興味のあるページを探し出すことも容易にできるなど、地史学の専門家でなくとも各地域の形成史が理解できるよう工夫された作りとなっている。

こうした地質案内の執筆の難しいところは、コースをたどって各露頭や景色の紹介を行ないながらも、その地

域の成り立ちの全体像を読者（見学者）にイメージさせる必要があることである。これについては上述の口絵写真や年表の掲載のみならず、ほとんどの執筆者がそのことを意識し、それぞれの地域の成り立ちについて整理して説明するなどの工夫がなされているため、たいへん読みやすくなっている。また、本書は、実際の地質見学を目的とするだけあって、地図を用いて車をとめる場所やコース中危険な場所を表記するなど、現地での実際の行動を十分考慮していることも評価できる。ただ残念なのは、多数（27名）の著者により執筆されているため、どうしても説明の仕方・表現や内容の難易度などが各章・各節ごとに大きく異なってしまう点であるが、多岐にわたる分野の案内を多数の専門家で分担する必要があるため、この点についてはある程度やむをえないのかもしれない。

地すべり関連では、手稲山の巨大地すべり、えりもの岩盤崩壊、豊浜トンネル坑口の岩盤崩壊、有珠善光寺や羊蹄山、チセヌプリの岩屑なだれ等が紹介されており、これらの現地見学時に、この書は大いに役立つであろう。また、地すべり以外についても、この書の豊富な写真や地図を用いた説明を読めば、北海道道央地域の成り立ちの概略を学ぶことができると同時に、何より本書を片手に現地へ向かいたくなる、お勧めの1冊である。



北海道大学出版会、290p。 1、890円

[賛助会員名簿]

北海道地すべり学会賛助会員名簿

所 属	郵便番号	勤 務 先 住 所	電 話 番 号
岩 崎(株)	060-0034	札幌市中央区北4条東2丁目1番地	011 - 252 - 2000
上山試錐工業(株)	060-0032	札幌市中央区北2条東13丁目1-7	011 - 241 - 6516
応用地質(株) 札幌支社	003-0023	札幌市白石区南郷通1丁目北9-20	011 - 863 - 6711
(株)開発調査研究所	062-0054	札幌市豊平区月寒東4条10丁目7-1	011 - 852 - 5053
川崎地質(株) 北海道支店	060-0031	札幌市中央区北1条東2丁目5-2 札幌泉第2ビル	011 - 232 - 1344
基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社	003-0807	札幌市白石区菊水7条2丁目7-1 SEビル	011 - 822 - 4171
(株)イーエス総合研究所	007-0895	札幌市東区中沼西5条1丁目8番1号	011 - 791 - 1651
(株)構研エンジニアリング	065-8510	札幌市東区北18条東17丁目1-1	011 - 780 - 2811
国土防災技術北海道株式会社	060-0033	札幌市中央区北3条東3丁目1-30 KNビル	011 - 232 - 3521
サンコーコンサルタント(株) 札幌支店	003-0803	札幌市白石区菊水3条2丁目4-1 ニューギン札幌ビル	011 - 837 - 5580
(株)シーイーサービス	062-0032	札幌市豊平区西岡2条8丁目5-27	011 - 855 - 4440
(株)シビテック	003-0002	札幌市白石区東札幌2条5丁目8-1	011 - 816 - 3001
(株)シン技術コンサル	003-0021	札幌市白石区栄通2丁目8-30	011 - 859 - 2600
(株)地圏総合コンサルタント札幌支店	064-0006	札幌市中央区北6条西22丁目2-3 チュリス札幌	011 - 615 - 1520
(株)測機社	064-0914	札幌市中央区南14条西11丁目3-3	011 - 561 - 5203
ダイシン設計(株)	060-0005	札幌市中央区北5条西6丁目1 道通ビル	011 - 222 - 2325
(株)ダイヤコンサルタント 北海道支社	001-0010	札幌市北区北10条西2丁目13番地2	011 - 729 - 2701
大地コンサルタント(株)	070-0054	旭川市4条西2丁目1番12号	0166 - 22 - 7341
中央開発(株) 札幌支店	003-0002	札幌市白石区東札幌2条5丁目76-3	011 - 842 - 4155
東亜グラウト工業(株) 北海道支店	007-0868	札幌市東区伏古8条2丁目5番19号	011 - 783 - 7832
トキワ地研(株)	065-0028	札幌市東区北28条東2丁目779	011 - 751 - 4841
日特建設(株) 札幌支店	004-0041	札幌市厚別区大谷地東4丁目2-20 第2西村ビル	011 - 801 - 3611
日本基礎技術(株) 札幌支店	060-0033	札幌市中央区北3条東8丁目8番地4	011 - 252 - 3670
日本工営(株) 札幌支店	060-0005	札幌市中央区北5条西6丁目 札幌センタービル	011 - 205 - 5531
(株)ドーコン	004-8585	札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4-1	011 - 801 - 1500
北海道士質コンサルタント(株)	062-0931	札幌市豊平区平岸1条2丁目5-16	011 - 841 - 1466
北海道三祐(株)	002-0856	札幌市北区屯田6条8丁目9-12	011 - 773 - 5121
パブリックコンサルタント(株)	060-0005	札幌市中央区北5条西6丁目 第2道通ビル	011 - 222 - 3338
防災地質工業(株)	001-0907	札幌市北区新琴似7条15丁目6-22	011 - 763 - 2939
明治コンサルタント(株)	064-0807	札幌市中央区南7条西1丁目	011 - 562 - 3066
(株)メジャメント	064-0912	札幌市中央区南12条西12丁目1-13	011 - 551 - 6623
和光技研(株)	063-0813	札幌市西区琴似3条7丁目5番22号	011 - 611 - 0206
ライト工業(株)札幌支店	060-0006	札幌市中央区北6条西18丁目1-7	011 - 631 - 6486

[学会役員幹事運営委員名簿]

平成23年度 北海道地すべり学会 幹事 名簿

役職	氏名	所 属
会 長	田近 淳	北海道立総合研究機構 地質研究所
副会長	伊藤 陽司	北見工業大学 工学部 土木開発工学科
副会長	丸谷 知己	北海道大学 大学院 農学研究科
監査委員	若山 茂	(有) テレリサーチ
監査委員	雨宮 和夫	防災地質工業 (株)
【幹事会】		
幹事長	中村 研	(有) 地盤工房
副幹事長	伊東 佳彦	独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所
副幹事長	小沼 忠久	国土防災技術北海道 (株)
顧問	前田 寛之	北見工業大学 工学部 土木開発工学科
幹事	米田 哲朗	北海道大学 大学院 工学研究科
幹事 (事務局長、大会準備委員長)	渡邊 司	(株) シン技術コンサル
幹事 (事務局次長、研究委員会委員長)	石丸 聡	北海道立総合研究機構 地質研究所
幹事 (事務局次長)	清水 順二	明治コンサルタント (株)
幹事 (事務局次長)	高貝 暢浩	日本工営 (株) 札幌支店
幹事 (事務局次長)	石田 博英	防災地質工業 (株)
幹事 (事業部長、大会準備副委員長)	戸田 英明	(株) ドーコン
幹事 (事業部副部長、企画委員会副委員長)	藤原 知行	サンコーコンサルタント (株) 札幌支店
幹事 (事業部副部長)	川上 源太郎	北海道立総合研究機構 地質研究所
幹事 (広報部長)	磯貝 晃一	(株) 開発調査研究所
幹事 (広報部副部長)	安田 匡	(株) 田宮設計事務所
幹事 (広報部副部長)	青木 淳	(株) 構研エンジニアリング
幹事 (巡検部長)	加藤 且久	東日工業 (株)
幹事 (巡検部副部長)	佐々木 隆	上山試錐工業 (株)
幹事 (巡検部副部長)	澁谷 奨	(株) 地圏総合コンサルタント 札幌支店
幹事 (技術普及部長)	伊吹 敦	(有) 北海化成工業所
幹事 (技術普及部副部長)	新田 雅樹	応用地質 (株) 札幌支社
幹事 (技術委員会委員長)	渡辺 一樹	(株) ダイヤコンサルタント 北海道支社
幹事 (技術委員会副委員長)	柴田 純	(株) シビテック
幹事 (研究委員会)	山崎新太郎	北見工業大学 工学部 社会環境工学科
幹事 (企画委員会委員長)	納谷 宏	明治コンサルタント (株)
幹事 (大会準備副委員長)	沼宮内 信	川崎地質 (株) 北海道支店

オブザーバー	長田 直樹	北海道開発局 建設部 道路建設課
オブザーバー	荒川 隆嗣	北海道開発局 農業水産部 農業計画課
オブザーバー	喜多 博志	北海道 建設部 土木局 砂防災害課
オブザーバー	清水 将夫	北海道 農政部 農村振興局 農村整備課
オブザーバー	横山 透	北海道 水産林務部 林務局 治山課

平成23年度 (社)日本地すべり学会北海道支部 運営委員名簿

役職	氏名	所 属
支部長	田近 淳	北海道立総合研究機構 地質研究所
副支部長	米田 哲朗	北海道大学 大学院 工学研究科
副支部長	丸谷 知己	北海道大学 大学院 農学研究科
副支部長	伊東 佳彦	独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所
副支部長	納谷 宏	明治コンサルタント (株)
監査委員	若山 茂	(有) テレリサーチ
監査委員	雨宮 和夫	防災地質工業 (株)
【運営委員会】		
運営委員	中村 研	(有) 地盤工房
運営委員	小沼 忠久	国土防災技術北海道 (株)
運営委員	前田 寛之	北見工業大学 工学部 土木開発工学科
運営委員	伊藤 陽司	北見工業大学 工学部 土木開発工学科
運営委員	戸田 英明	(株) ドーコン
運営委員	藤原 知行	サンコーコンサルタント (株) 札幌支店
運営委員	川上 源太郎	北海道立総合研究機構 地質研究所
運営委員	磯貝 晃一	(株) 開発調査研究所
運営委員	安田 匡	(株) 田宮設計事務所
運営委員	青木 淳	(株) 構研エンジニアリング
運営委員	加藤 且久	東日工業 (株)
運営委員	佐々木 隆	上山試錐工業 (株)
運営委員	澁谷 奨	(株) 地圏総合コンサルタント 札幌支店
運営委員	伊吹 敦	(有) 北海化成工業所
運営委員	新田 雅樹	応用地質 (株) 札幌支社
運営委員	渡辺 一樹	(株) ダイヤコンサルタント 北海道支社
運営委員	柴田 純	(株) シビテック
運営委員	山崎 新太郎	北見工業大学 工学部 社会環境工学科
運営委員	沼宮内 信	川崎地質 (株) 北海道支店
運営委員 (事務局長)	渡邊 司	(株) シン技術コンサル
運営委員 (事務局次長)	石丸 聡	北海道立総合研究機構 地質研究所
運営委員 (事務局次長)	清水 順二	明治コンサルタント (株)
運営委員 (事務局次長)	高貝 暢浩	日本工営 (株) 札幌支店
運営委員 (事務局次長)	石田 博英	防災地質工業 (株)

オブザーバー	長田 直樹	北海道開発局 建設部 道路建設課
オブザーバー	荒川 隆嗣	北海道開発局 農業水産部 農業計画課
オブザーバー	喜多 博志	北海道 建設部 土木局 砂防災害課
オブザーバー	清水 将夫	北海道 農政部 農村振興局 農村整備課
オブザーバー	横山 透	北海道 水産林務部 林務局 治山課

[編集後記]

2011年は、3月に東日本大震災が発生し、東北地方では甚大な被害を受けました。北海道は、東北地方に比べて被害は小さかったものの、太平洋沿岸地方を中心に津波による被害を受け、地震の驚異をまざまざと見せつけられました。

北海道は、地震が発生する可能性のある断層が分布しており、地震発生危険性が高いと考えられている地域が点在しております。今後、地震による斜面災害や津波災害などを最小限にとどめるための斜面調査やハザードマップの作成など、ますます地すべりや斜面災害に関わる分野の社会的ニーズが増していくと思われまます。

この慌ただしいなかで、「地すべり北海道」(北海道地すべり学会ニュース)も復刊後第三号の発行することができました。お忙しい中、原稿執筆に協力していただいた方々に深く感謝申し上げます。

皆様からも地すべりをはじめとした斜面災害に関わる情報をお寄せいただき、さらに内容が充実するように努めたいと思います。

ご意見、ご感想など御座いましたら、下記問い合わせ先までよろしくお願い致します。

原稿募集

皆様からの原稿を、常時募集致します。内容は、広く地すべりに関連する興味深い話題であればご自由ですので、下記原稿送付先までお送りください。

問い合わせ、原稿送付先

青木 淳 (株)構研エンジニアリング 地質部
〒065-8510 札幌市東区北18条東17丁目
Tel:011-780-2811 Fax:011-780-2832
E-mail: a.aoki@koken-e.co.jp

磯貝 晃一 (株)開発調査研究所 地質部
〒062-0054 札幌市豊平区月寒東4条10丁目
Tel:011-852-6835 Fax:011-855-1298
E-mail: isogai.152@kaichoken.co.jp

安田 匡 (株)田宮設計事務所
〒064-0823 札幌市中央区北3条西24丁目
Tel:011-643-8666 Fax:011-643-8940
E-mail: yasuda@tamiya-sekkei.co.jp

地すべり北海道 29 ～北海道地すべり学会ニュース～

発行日 2011年11月1日
発行者 北海道地すべり学会
発行責任者 北海道地すべり学会会長 田近 淳
広報部 磯貝 晃一、安田 匡、青木 淳